# 西洋文明論 II

科目ナンバリング　HEA-202
選択　　2単位

藤田　敏明

1. 授業の概要（ねらい）

基本概念は前期と同じですが、後期は、近代ヨーロッパにおける「自我の確立」、さらには深層心理研究の発達における各種コンプレックス、そこからの「自我」の崩壊――いわゆる「アイデンティテイ」を主体として授業を進めます。それは必然的に「人間とはどういうものか」という、「根源的問いかけ」にならざるを得ません。

2. 授業の到達目標

人文学――ヒューマニティにおける基本的命題、「人間とは何か」に対する問いかけを自らの言葉でなしえて、それに対する回答を「模索」できる、「人間存在」たりうること。

3. 成績評価の方法および基準

毎回の授業時の小レポートにおける授業内容理解55%、期末レポート45%、ただしレポート提出は必須。

4. 教科書・参考文献

教科書
教科書は指定せず、教員のハンドアウトと映像で授業を進めます。参考文献は適宜指摘。

5. 準備学修の内容

授業前には、西洋人文学の基本的常識を身に着けておくこと、授業開始後は、ヒューマニティを学ぶ人間としての自覚を持つこと。（授業のタイトルがタイトルなので、思い切り大上段からの要求です）

6. その他履修上の注意事項

人間とは何か、何のために生きているのか、という、いわば「非日常的な問いかけ」をする授業です。例えば就職などの実際的な事柄に「すぐ役に立つ知識」を身に着けるということではなく、「深く考える」態度をはぐくむ場です。

7. 授業内容

【第1回】　前期report返却および講評。後期の基本的方針。デカルトから始まる「近代的自我」の定義づけ。
【第2回】　フロイト「精神分析入門」深層心理、潜在意識、「オイディプス・コンプレックス」
【第3回】　悲劇「オイディプス王」前半
【第4回】　後半
【第5回】　「生きるべきか、死ぬべきか」--悲劇「ハムレット」前半
【第6回】　後半
【第7回】　人間そっくりの「人形」--バレエ「コッペリア」前半
【第8回】　後半
【第9回】　21世紀初めの今、すでに現実化しかけている「クローン人間」――「ブレードランナー」前半
【第10回】　後半
【第11回】　西洋から見た「東洋」--オペラ「トゥーランドット」前半
【第12回】　後半
【第13回】　西洋から見た東洋――バレエ「バヤデール」前半
【第14回】　後半
【第15回】　日本SFにおける「人間」と「人間でないもの」あるいは「その中間